

2013 年度 小委員会活動成果報告

(2014 年 2 月 7 日作成)

小委員会名	環境心理小委員会	主 査 名：榎 究 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境心理生理運営委員会)	委員長名：田辺 新一 主 査 名：松原斎樹
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2015 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>人間・環境系を総合的に扱う環境心理研究を発展させるための組織的取り組みを行う。</p> <p>具体的には、前身の小委員会で開催されてきた「環境心理チュートリアル」を継続的に開催すると共に、現在までの研究状況を整理し、今後取り組むべき課題および研究発展のための方策を検討して、実施する。</p> <p>初年度： 1) 環境心理研究に資する情報の提供 (チュートリアル開催等) 2) 交流活動の推進(公開研究会等) 3) 研究状況の整理 (若手研究者の研究紹介等) 4) 活動体制の検討 (環境心理研究発展の方向性の検討等)</p> <p>2 年度： 初年度活動の継続</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：榎 究 (実践女子大学)、幹事：小島 隆矢 (早稲田大学)、上野 佳奈子 (明治大学)、大石 洋之 (㈱ジェイアール東日本建築設計事務所)、古賀 誉章 (鉄道総合技術研究所)、佐野 奈緒子 (東京電機大学)、高橋 浩伸 (九州大学)、高橋 正樹 (文化学園大学)、辻村 壮平 (東京大学)、長澤 夏子 (早稲田大学)、西原 直枝 (聖心女子大学)、宗方 淳 (千葉大学)、渡辺 秀俊 (文化学園大学)、小崎 美希 (東京大学)、宇治川正人 (実践女子大学大学院)	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>チュートリアル運営 WG 環境心理研究の実施に有用な知識を研究者に広めることを目的としたチュートリアルを企画・実施すること。</p> <p>環境心理研究手法 WG 環境心理研究の質の向上に資する研究手法的な知見を収集・分析すること。</p> <p>「可愛い」を求める心と空間のあり方に関する研究 WG 「可愛い」の意味や効果、建築空間との関連、「かわいいデザイン」の技術的発展などについての検討を行い、特に関わりが深いと思われる児童や高齢者を対象とした施設空間のあり方 (インテリアや外装など) を整理することにより、環境心理分野に新たな領域を開拓すること。</p>	
2013 年度予算	33,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	環境心理小委員会：3 回 ・チュートリアル運営 WG：3 回 ・環境心理研究手法 WG：3 回 ・「可愛い」を求める心と空間のあり方に関する研究 WG：4 回 (年度内開催予定を含む)

刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	1. 第13回 環境心理生理チュートリアル「環境心理生理研究におけるモデルの立て方の作法と技法 ～ 三手先を読む研究計画～」 参加者数 58名
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	<p>十分な成果が得られている。</p> <p>1. チュートリアルの開催 (2013年9月13日開催) による情報提供および研究状況の把握</p> <p>2. 2013年度大会発表論文のレビュー実施による研究状況の整理・把握</p> <p>3. 「可愛い」を求める心と空間のあり方に関する複数回の見学会、講演会の実施による交流促進</p> <p>4. 「可愛い」を求める心と空間のあり方に関する WG デジタル機関誌「K・キューブ」の発刊 (年度内に4号まで発刊予定。PDF形式のものであるので、刊行物ではなく、こちらに記載する。)</p> <p>5. 小委員会内での討論を通じた、方向性の検討 (結果を OS 企画時に参照)</p>
委員会活動の問題点 ・課題	1. 定員により、小委員会としての新規委員募集が困難であること

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

*表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2013 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>目標の達成度の欄にも記載したが、下記の活動を実施しており、十分な成果が得られている。活発な活動を行っていると言える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チュートリアル開催 2. 2013 年度大会発表論文のレビュー実施 3. 「可愛い」を求める心と空間のあり方に関する複数回の見学会、講演会の実施 4. 「可愛い」を求める心と空間のあり方に関する WG デジタル機関誌「K・キューブ」の発刊 5. 小委員会内での討論を通じた、方向性の検討 			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。